

# 刻石流水

京都府立東宇治高等学校  
第2学年 学年通信  
第 10 号  
令和8年3月19日

～受けた恩義は心の石に刻み、施したことは水に流す～



学年部長 6組 川越俊輝（数学）

～過去を超え、未来で待つ理想の自分に出会うために～

高校2年生はどのような年になりましたか？

昨年の年初めに描いたものを超えることはできましたか？

人はさまざまな挑戦を通して、成長を実感し、少しずつ自信をつけて前進を続けます。

激しい変化の社会に目を向け、挑戦を続けること。

そして、自分の成長を感じる時間を大切に、自信を持って未来へ歩んでください。

1組 近藤和郎（国語）

「楽観主義者が生き残ってきたのが人類の歴史だ。」内田樹という大学の先生が著書の中で述べていました。先行き不透明な VUCA と呼ばれる時代。「大学に行っても...」「良い会社に入ったところで...」そんな言葉が現実・ヴァーチャル問わず聞こえてきます。たしかに多角的な視点は大事だし、石橋を叩くことも必要。それでも、夢を持って自分を信じてひたすら行動する先には明るい未来が待っている。なんとかするし、なんとかなるのです。

2組 谷口博一（数学）

進級、おめでとうございます。と同時に、自覚していますか？最上級生となります。学校内での振る舞いに責任を持ち、他者に流されてはならない。学校外での行動では成人となり、社会人扱いされることへのプライドを持たねばなりません。歩きスマホはもう出来ない。自転車だって、交通ルールをしっかりと守らねばならない。意識するだけで、背筋が伸びます。誰が見ても素晴らしい生徒であれ。その先に進路実現の道が広がっています。

### 3組 蔵田遥（地歴公民）

本当に行きたい進路の名前を、第二希望の欄に書くのってどう思いますか？

私はその気持ち、わかります。あいつあんな成績なのにあの大学行きたいんだ～って言われたら嫌だし、達成できなかつたら恥ずかしいし。何より、第一志望を明確にしてしまったら、今の自分の努力の足りなさとか覚悟のなさとかがいろいろ明るみに出てきてしまって自分で自分に失望してしまうような気がして怖い。

でも、自分の進路を決める3年生という学年は、それをしないとイケない学年です。

第一希望を第一希望の欄に書ける人になってください。そしてそれに向かって全力で頑張れる人になってください。応援してるからね。

### 4組 小野輝弥（英語）

オーストラリアで16歳未満のSNS禁止が法律で制定されました。不便だなと思う一方で、もし自分が高校生の頃にInstagram、TikTok、YouTubeが今ほど流行っていたら、自分より優秀でキラキラした高校生をたくさん観て、劣等感を持っていたかもしれないと思います。

4月からは進路を決めるために、自分の得意なことだけでなく、劣等感を抱くような苦手にも向き合わなければいけません。皆さんもSNS（スマホ）だけでなく、自分と向き合う時間を今から少しずつ増やしていきましょう。

### 5組 川本容子（国語）

2026年が始まってから早くも3ヶ月が経とうとしています。まさに「光陰矢のごとし」です。そして、4月からはいよいよ最高学年となります。「いよいよ」という言葉を聞くと、プレッシャーを感じる人がいるかもしれませんね。しかし、おやみに恐れる必要はありません。これまで頑張りが足りなかった人や、力を発揮できなかった人にとって、今が自分を変えるチャンスだからです。行動するのはあなた自身ですが、東宇治高校51期生というチームの力がきつとあなたを支えてくれるはずですよ。ホップ、ステップ、ジャンプ。飛躍を期待しています。

### 7組 朱久美子（英語）

少し、目を閉じて、深呼吸をして下さい。そして、想像して下さい。あなたは今、静かな体育館で、「第51回卒業証書授与式」という文字を見ながら、校長先生の式辞を聞いています。泣いても、笑っても、今日が最後。クラスの仲間や先生と教室に集うのも、今日が最後です。今、あなたはどんな気持ちで体育館の列にいますか。晴れやかな気持ちですか、それとも、後悔の気持ちでしょうか。

それでは、目を開いて、考えてみて下さい。あなたは、どんな気持ちで、未来のこの日を迎えたいたいですか。今日から、今から。出来ることがたくさんあります。